

1 結核・感染症サーベイランス事業におけるウイルス検査

結核・感染症サーベイランス事業の28対象疾病について県内13検査定点から採取された検体についてウイルス分離同定を行った。

検体数、分離状況は、表1に示すとおりである。1,070人、1,457検体からウイルスが分離されたのは334検体で分離率22.9%であった。本年の特徴をつぎにあげる。

- 1 無菌性髄膜炎の大流行はみられなかったが10種類のウイルスが関与していた。
- 2 流行性耳下腺炎の流行を受けてムンプスウイルスが多数分離された。また、MMR ワクチン接種後の無菌性髄膜炎患児5名の髄液から分離されたムンプスウイルス3株はワクチン様であった。
- 3 アデノウイルス3型が咽頭結膜熱、流行性角結

膜炎などの7疾患から高率に分離され、ひとつの流行形態をとった。

4 手足口病の原因ウイルスは、エンテロウイルス71型であった。

5 ヘルペスウイルス1型が年間を通して分離された。最近の傾向では陰部ヘルペスからの分離はヘルペス2型より多くなっている。

6 インフルエンザ様疾患は、例年に比べて発生が遅く、患者数も少なかった。2月下旬になってA香港型が確認された。

これらの検査結果は、鳥取県感染症情報解析評価委員会資料、全国病原微生物検出情報として報告し、関係機関に還元活用されている。

表1 結核・感染症サーベイランス事業におけるウイルス分離状況

臨床診断名	検体数 /人数	分 離 ウ イ ル ス 名															合 計			
		ア デ ノ 1 型	ア デ ノ 2 型	ア デ ノ 3 型	ア デ ノ 4 型	ア デ ノ 5 型	ア デ ノ 6 型	エ コ 1 9 型	エ コ 1 30 型	エ ン テ ロ 71 型	コ ク サ ッ キ ー A 9 型	コ ク サ ッ キ ー B 2 型	コ ク サ ッ キ ー B 3 型	ヘ ル ベ ス 1 型	ヘ ル ベ ス 2 型	ポ リ オ 2 型		ム ン ブ ス	ロ タ	イ ン フ ル エ ン ザ 型
麻疹様疾患	16 12																			
風 疹	70 67												1							1
水 痘	12 12																			
流行性耳下腺炎	99 95			1												24				25
百日咳様疾患	7 7																			
溶連菌感染症	17 14			2																2
異 型 肺 炎	6 2																			
感染性胃腸炎	234 179	2	1	7		2		1			1	1			1		18		34	
乳児嘔吐下痢症	112 83	2	1										1				45		49	
手 足 口 病	85 84								16										16	
伝 染 性 紅 斑	0 9																			
突 発 性 発 疹	9 9																			
ヘルパンギーナ	89 83	1	1	3				1			1	1	3						11	
インフルエンザ 様 疾 患	31 31																		8	8
MCLS(川崎病)	23 13																			
咽 頭 結 膜 熱	52 50			35				1				1								37
流行性角結膜炎	37 37			11	2								1							14
急性出血性 結 膜 炎	1 1																			
無菌性髄膜炎	514 257		3	7		2	1	75	9	1	10	10				14			132	
脳、脊髄炎	19 10																			
陰部ヘルペス	24 24												4	1						5
尖 コンジローム																				
合 計	1,457 1,070	5	6	66	2	4	1	78	9	17	11	1	13	10	1	1	38	63	8	334